

# 小清水赤十字病院



原稿執筆者名 岩田 雄一

所在地：北海道斜里郡小清水町南町2丁目3番3号

## 病院概要

病床数：87 床

診療科目：9 科

内科・消化器内科・糖尿病内分泌科・循環器内科・総合診療科・整形外科・小児科・皮膚科・  
眼科・人工透析（18 床）

職員数：153 人

医師数：常勤 4 名、非常勤 14 名

看護師数：51 名

診療放射線技師数：2 名（内 男性 2 名）

認定技師取得者数：2 名

認定内容：  
・X 線 CT 認定技師 2 名  
・放射線機器管理士 2 名  
・放射線管理士 2 名  
・Ai 認定診療放射線技師 1 名  
・超音波検査士（消化器）2 名  
・超音波検査士（循環器）1 名

当直・夜勤体制について：On call 当番制

## 導入機器

### 一般撮影装置

担当技師：1 人 機器台数：1 台

導入メーカー・機器名：島津メディカルシステムズ RAD speed Pro

1 日平均撮影件数（人）28.1 人

### FPD

担当技師：1 人 機器台数：1 台

導入メーカー・機器名：富士フイルム CALNEO シリーズ

1 日平均撮影件数（人）

### ポータブル

担当技師：1 人 機器台数：1 台

導入メーカー・機器名：島津メディカルシステムズ Mobile ART Evolution

1 日平均撮影件数（人）3 人

## CT

担当技師：1人 機器台数：1台（64列以上：1台）  
導入メーカー・機器名：キヤノンメディカルシステムズ Aquilion Prime SP  
1日平均撮影件数（人）7.8人  
ワークステーション:アミン株式会社 Ziostation2 PLVS classic H

## X線TV装置

担当技師：1人 機器台数：1台  
導入メーカー・機器名:キヤノンメディカルシステムズ DREX-ZX80/31  
1日平均撮影件数（人）0.7人

## X線骨塩定量装置

担当技師：1人 機器台数：1台  
導入メーカー・機器名：富士フイルム DSC-900FX  
1日平均撮影件数（人）2.8人

## 超音波診断装置

担当技師：1人 機器台数：2台  
導入メーカー・機器名: キヤノンメディカルシステムズ Aplio 500、Aplio XV  
1日平均撮影件数（人）6.8人

※モダリティーの担当技師ですが、CT と超音波装置を交代で担当し、他のモダリティーは手の空いている技師が担当するというスタイルです。

## 貴院の新しい業務の取り組みや業務改善の紹介

当院は、北海道の東に位置し雄大な自然環境に囲まれた環境で、地域医療を担う小規模病院です。放射線技師2名で日々業務を行っておりますが、病院の性格上、慢性期疾患を中心に診療しておりますので、先進的な撮影法とは少し距離を置いた業務内容になっております。ですので、今回は業務改善の取り組みについて、2点ほどご紹介させていただきます。

### ① 医師のタスクシフトとして、読影補助業務を行っています。

常勤医数が少ない当院では、医師の業務負担が多いことが問題となっております。医師の業務範囲は多岐にわたりますが、診療業務を優先的に行うと書類作成などの業務が後回しになりがちです。

健康診断の結果作成がその一つで、結果を受診者に迅速に届けるには、読影レポートを滞りなく作成することも必要です。そこで、健康診断で撮影した胸部単純写真や胸部 CT 画像を、医師が読影する前に、放射線技師が一次読影を行ってレポートを作成しております。具体的には、PACS に付属するレポートングシステムを利用して放射線技師がレポートを作成し、それを医師が添削

するような流れになります。最初からレポートを作成するよりは時短が図れますので、業務負担軽減に寄与できていると考えております。今年の3月には、AIを利用した胸部X線画像病変検出ソフトウェア（富士フィルム）を導入予定で、さらなる効率化と精度向上を期待しております。

話が変わりますが、先日、当課スタッフ全員が告示研修を修了しましたので、タスクシフトの一環として、造影CT後の抜針・バイタル確認・患者送迎業務を行う予定で、現在、看護部と調整を行っています。

## ② 医療技術部内で密度の高い連携を図っています。（放射線業務とは異なりますが、）

小規模病院の問題点として挙げられるのが、スタッフが少なくマンパワーの多様性に限りがあることです。当課は2名のスタッフで業務を行っていますので、取り巻く世界が狭くなってしまいがちです。他の部署（医療技術部内）も同じような状況でしたので、数が少ないならば連携することで対象人数を増やし、事業規模の拡大を図る取り組みを十数年前より行っております。最初に始めたのは、医療技術部合同研修会の開催でした。コメディカルスタッフが集まった会なので、“Co-Meの会”と名付けて活動しております。それぞれの専門職の知識を共有することを目的としていて、例えば、検査技術課からは、血液データや心電図の読み方、リハビリテーション技術課からは、安全な患者移乗の方法など、ある時は“糖尿病”をテーマにして、栄養課からは食事療法について、臨床工学技術課からは透析療法についてなど、単課では知りえない情報を交換して自分たちの世界を広げる努力をしています。

そんな活動を行ってきた背景があり、2021年に、私が医療技術部技師長に就任し、現在は、一つの部として機能することを目標とし、様々な取り組みを行い試行錯誤している最中です。

その一つとして、部内に接遇スキル向上チームを発足させました。接遇研修を受講したリーダーが中心となって、“接遇”という共通テーマのもと医療技術部が一丸となり勉強しております。来年度は医療安全スキル向上チームも発足させて、部内のスキルアップを図る予定です。

以上、少々枠から外れてしまいましたが、当院の取り組みについてお話をさせていただきました。



図.医療技術部責任者会議の様子

## ここ最近5年間の放射線科の移り変わり

2017年7月：X線CT装置更新（キヤノンメディカルシステムズ）

2019年7月：PACSクラウド化（ジェイマックシステム）、X線CT線量管理システム導入

2022年2月：FPD導入（富士フィルム）、一般撮影線量管理システム導入

2023年3月：超音波診断装置更新予定

2023年3月：X線TV装置更新予定、X線TV装置線量管理システム導入予定

2023年3月：胸部X線画像病変検出ソフトウェア導入予定

## 地元紹介

小清水町は北海道の東北に位置し、オホーツク海に面した人口約 5300 人の小さな町です。周囲を世界遺産知床・網走国立公園・阿寒国立公園に囲まれており、森と湖と海が調和した四季折々の自然が豊かで、新鮮な食材や豊富な温泉にも恵まれており、特に冬は国内唯一の流氷地帯となるなど、独特な特徴を持っています。



- ① 冬期（1～2 月）は、オホーツク海に流氷が押し寄せてくる季節で、多い日には海面を覆いつくし対岸の半島まで地続きとなることがあります。また、流氷が来ると寒さが一段と厳しくなり、時にはマイナス 20 度を超える日もあります。ただ寒いだけではなく、流氷は海全体をかき回し、海底にある栄養成分を押し上げ、また、植物プランクトンを運んでくるなど、豊かな海を育むのに重要な役割を果たしています。
- ② オホーツクは、ホタテ、サケ、毛ガニ、キンキなど海の幸が豊富ですが、実は農業も盛んで、ジャガイモ、ビート、アスパラ、長芋、玉ねぎなどの栽培が盛んに行われています。夏、ジャガイモの白い花が畑一面に咲き誇る姿は、雄大で美しく北海道らしい景色の一つとなっています。小清水産の茹でた新じゃがにバターを乗せた“じゃがバター”のホクホク感は絶品ですよ！

